

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4473000349		
法人名	社会福祉法人 直心会		
事業所名	望箭荘 グループホーム山国 ユニット1		
所在地	大分県中津市山国町守実57-1		
自己評価作成日	平成24年12月20日	評価結果市町村受理日	平成25年6月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年3月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地元産の米や野菜を使用し3食手作りの温かい食事を提供している。  
 事業所内や地域の行事等に積極的に参加し交流を深めている。  
 ドライブ(花見、紅葉見学、案山子見学・ホタルの鑑賞)に出かけたり近隣の散歩をすることで、季節や自然を楽しんでいる。  
 利用者の身体状況に応じたケアを行い、利用者・家族の意向に沿った支援を行なっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理念に本人の力を引き出し、その人らしい生活を支援するなど5項目を掲げ、理念が日々のケアに活かされている。  
 ・地域との連携について、地域住民との触れ合いが多く、事業所と住民が一つになって、災害対策や地域行事、案山子祭り、虫鑑賞などに参加し、利用者の活性化に繋げている。  
 ・食事を楽しむ支援として、地産地消に心掛け、利用者の潜在能力を見出し、献立や食材の買い物、食事の下ごしらえなど、リハビリ目的で取り組んでいる。味付けもよく、一家団欒の和やかさがある。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	荘内の見やすい場所に掲示するとともに、毎朝の朝礼や職員会議時に確認し、支援に生かしている。	理念に「本人の力を引き出しその人らしい生活を支援する」など5項目をつくり、掲示している。実践について、朝礼や会議の中で振り返っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や祭り等に参加して、地域との交流を図っている。食材などの買い物に利用者と一緒に、近隣の方との交流を図っている	地域の祭りに出掛けたり、行事に参加をしている。近くのお地蔵様の参拝や馴染みの深い農協、食材の買い物に出掛けるなど、日常的な触れ合いがある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方々に認知症の理解を深めてもらえるように取り組んでいる		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や運営に関する報告の他に意見交換の時間を設け要望やご意見を伺い話し合い、よりよいサービスの提供に努めている	市の職員や民生委員、地域包括支援センター、家族、利用者などが参加し、今回の水害被害について情報交換や今後の課題について積極的に意見交換している。また、地域の行事を聞き、外出支援に役立てている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの情報交換や市の職員とも相談し、利用者が地域の中でさらに生活しやすいように連携を図っている	市の職員に安心サポートの情報や制度の変更などを聞いている。また、県社協より水害時の対応について講義を依頼され、経験談を話している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護や身体拘束について研修を行い理解を深めるようにしている。又見守りに努め、施錠しないようにしている。	身体拘束の弊害について、職員は正しく認識している。家族には契約時に重要事項を基に説明している。センサーマット使用者は、1人である。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティング等で理解を深め虐待防止に対する認識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2ヶ月に一度の運営推進会議上でも、成年後見制度等について話し合いをして支援できるように取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項に理解納得していただけるように説明を心がけている。利用者の状態変化時には、家族と相談し方針を検討している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プラン見直し時や、面会時など機会あるごとに確認し、意向・要望等について話し合い、利用者主体の運営に努めている。	定期的に「お元気通信」を発行し、取り組み状況を知らせ、運営に関する意見をもらっている。利用者の4人が携帯電話を持っており、家族と連絡を取り合っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務に対する改善点などを職員会議や朝礼時などで聞き運営に反映されるように努めている。事業計画作成時に職員の意見を聞き、計画に反映させている。	わかりやすい記録用紙に、日々の出来事を詳細に記入している。会議では、積極的に意見を出し合い運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	慰労を兼ねた食事会や表彰制度を取り入れ、職員が向上心を持って働けるような職場環境づくりに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り必要な研修に参加し、職員の資質向上に努めている。又資格取得に向けて、個々人の取り組みもあり業務上の配慮を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中津市認知症高齢者グループホーム連絡会に所属し、年間を通じての交換実習をおこなっている。他事業所と交流を持ち、お互いの情報交換やサービスのあり方を検討しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた場合は、本人・家族の話を傾聴するように努めている。又担当ケアマネージャーより情報を得て、様々な問題に対応できるように努め、納得されたうえで利用していただけるように取り組んでいる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談時に現状やサービス利用状況などをうかがい家族の意向を理解し、介護相談や助言など行うように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に状況を判断し、助言や他の機関等のサービスの紹介などを含めた対応をするように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が人生の先輩であるという認識を職員が共有し、利用者に教えていただくというストレングス視点の援助を行っている。季節の行事や習わし、特技や趣味を發揮できるように努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・電話連絡などで、利用者の様子を伝え状況を理解していただき、またご本人・ご家族の思いを受け止められるように、相談などにも気軽に応じるように心掛けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊、外出は自由にいただいている。面会時には、共に過ごせる場を提供し、大切な時間を有意義に過ごせるように努めている。	事業所の近くに、バスセンターや福祉センターがあり、多くの友人が訪れている。住職との触れ合いが多く、墓参りや月命日、法事などで帰省している。また、農協や案山子祭り、蛍観賞、買い物に出掛けている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞く機会を設けたり、皆でカラオケやCDを聴いたり、ソファでの談話など、それぞれの場で利用者同士の関係がうまくいくように心がけ、見守りなどの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移動された方にも、情報を提供したり、継続的な支援になるようにしている。又、面会の機会作りをしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情・行動・言葉等から、個々の思いを汲み取り、寄り添った支援に努めている。	家族から生活歴や身体状況などの情報を聞き、思いや意向を把握している。また、職員は、行動や表情、しぐさなどから一人ひとりの思いを把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人やご家族の意向や、担当ケアマネージャーより情報を得るようにしている。入居後も定期的に本人やご家族に聴き把握するように努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者個々人の生活リズムを理解すると共に、特技や趣味を發揮できる場面などを提供し、その状態に合わせた声かけ・見守り・支援を心がけ、個々人の状態を把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃からの関わりの中で、思いや意向を反映させるようにしている。職員全員で検討しケアプランを作成している。	思いや意向をもとに、実践しやすい介護計画書を作成している。24時間の対応表に記録し、モニタリングしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記載し、気づきや体調変化は申し送りを徹底し情報共有できるようにしている。又、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じた通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し個々の満足を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーに市の職員、地域包括支援センター職員、民生委員の参加があり情報交換を行っている。消防署とは、避難・消火・通報訓練の助言・指導を得ている。災害時には地域との協力を得ている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、又ご本人が希望する医療機関へ受診できるように支援している。受診時間や必要なときは、往診などで対応可能な協力医を確保している。	受診は、利用者や家族の意向に沿い、職員が付き添っている。病状によって、往診医を確保し、適切な医療が受けられる仕組みができています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的受診でご利用者の状況を把握している看護士や、同法人の看護士より助言を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の利用者の生活状況や希望を情報として提供し安定して治療を頂き、家族や医師と連絡を取り合いながら早期回復と退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される場合早い段階で医師と連携を図り、家族と話し合い、納得のいく終末期を過ごしていただけるように取り組んでいる。	家族に重度化や終末期について、「重要事項説明書」を用いて説明している。重度化した場合、家族の希望で医療体制の整っている特養に移行している利用者もいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡網・マニュアルを把握しており救急法の勉強会を実施し、体得するようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時には、職員・地域の方にも緊急連絡網で協力を得られるようにしている。消防署の方の指導で総合訓練を行っている。同法人の協力体制もある。	事業所が大水害に遭遇したため、昼夜を問わず防災訓練をしており、地域住民や職員の連絡体制も確立している。県下の福祉施設の研修会において、災害の体験発表をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の個々に合わせ、さりげない言葉かけや対応を心掛け、気づいた時は職員同士お互いに注意し合うようにしている。プライバシー保護についての勉強会を行い、理解が深められるように取り組んでいる。	利用者一人ひとりの意思表示を大切にしながら、声掛けや支援を行っている。意思表示のできない方は、頷きや表情で確認している。職員研修でプライバシー保護について勉強会を開いている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活全般においてご利用者個々の方々の意思表示を大切にしたケアに心掛けている。意思表示が困難な場合は、頷きによる返答や表情を読み取るようにし、本人の意思が尊重できるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、体調やその日その時の本人の気持ちを尊重し、食事の時間・入浴の検討・変更、個別散歩など柔軟に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事(母の日・父の日・誕生日・敬老会)などには一緒に洋服を選んだり、お化粧やおしゃれを楽しめるように支援している。地域の美容院でのカット・毛染め等の利用支援(談話をしながら)を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食とも調理するので利用者の好みや体調に合わせて調理方法を検討し、食材の買い物・もやしの根とり・シメジの小分け・ゴボウのささがきなど利用者の手伝いもある。職員も一緒に和やかに食事を楽しんでいる。	地産地消に心掛け、3食事業所内で作っている。利用者個々の潜在能力を見出し、職員と一緒に買って、買い物や準備、後片付けなどしている。和やかな一家団樂の雰囲気がある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日チェックし摂取量が少ない場合は、申し送りや把握し必要な支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい・歯磨き・入れ歯の手入れを行い、口腔の清潔保持に努めている。又、毎夜入れ歯のポリデント清掃の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、ご利用者の行動を察知しトイレ誘導を行い、出来るだけトイレにて排泄していただけるように支援している。又時間を見計らって誘導の声かけを行っている。	排泄パターンや表情を察知し、トイレ誘導をしている。排泄の自立は4人となっている。排便のコントロールとして、適度な運動、水分補給、食事内容の工夫をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動・水分摂取・飲食物などの工夫で便秘予防に努めている。排泄チェックで確認しながら排便支援を行っている。又医師より薬の処方されているご利用者もあり、様子観察をして内服支援を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週三回の入浴を基本とし、本人の体調や気分、希望、必要に応じて時間や入浴日を変更するなど柔軟な支援を行っている。入浴をゆったりと楽しんでいただけるように本人のペースに合わせた支援に取り組んでいる。	入浴室に「ゆ」と掲げ、入りたい気分を誘発する工夫がある。ゆったり入ってもらえるよう時間帯や個浴、体調に合わせ、週3回入っている。浴室は、高さの調節や滑り止めの工夫がある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のご利用者の生活パターンを観察して、本人の意向を尊重した支援を行っている。例) 昼食後のベッドでの休養・運動・レク・余暇活動など行うことにより安眠の支援に取り組んでいる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を変更した場合にその旨を記録し、職員間で情報を共有し本人に変化があった場合は医療機関と連絡を取り指示を得ている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴を把握して得意分野での一人ひとりの力を発揮してもらえるように配慮をする。グループホーム内でお手伝いできそうな仕事をお願いし、その後必ず感謝の気持ちをご本人に伝えるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により日常的に散歩・農協等への買い物・ドライブなどに出かけたり、また花見や紅葉見物など季節ごとの外出で外食等も楽しんでいただくように支援している。	事業所近くのお地藏さまへのお参りや、馴染みの深い農協での買い物、市外への買い物、季節ごとの外出、外食などで楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭感覚の能力に応じて、買い物外出時に職員が付き添いで支払いの見守り援助を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や用事があるとき、電話をしたり、絵手紙・年賀などで家族との交流を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内のホールにはソファを置き、テレビ鑑賞を出来るように、和室には、冬場はコタツを置いている。又ホールには、日当たりのいいところに畳を敷いて日向ぼっこを楽しめるように配慮している。CDをかけたり、利用者による貼り絵を飾ったりくつろげる雰囲気作りをしている。	2階から住民の生活の様子が見え、眺めも良い。また、日当たりのよい場所に畳を敷き、日向ぼっこを楽しめる。カラオケセットから利用者の歌声が流れ、季節のお花、アンティーク家具、昔を偲ぶ懐かしい写真、マッサージチェアなどが置かれている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の方々は、ソファでテレビ鑑賞をしたり、近くの利用者同士で談話をしたり、また日向ぼっこをされたりと、好みの場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	時計・カレンダー・テレビ・馴染みのある私物・家具・家族写真など居室に置き、やすらぎの場所作りに心掛けている。	一人ひとりの部屋には、家族からのメッセージカードや俳句、写真、懐かしいレコード、テレビなどが置かれ、やすらぎのある居室づくりがされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・エレベーター・浴室・脱衣所など手すりの設置や段差をなくし、安全や自立に配慮している。外出時、玄関に椅子を置き、腰掛けて靴などの交換をするようにしている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4473000349		
法人名	社会福祉法人 直心会		
事業所名	望箭荘 グループホーム山国 ユニット2		
所在地	大分県中津市山国町守実57-1		
自己評価作成日	平成24年12月20日	評価結果市町村受理日	平成25年6月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年3月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地元産の米や野菜を使用し3食手作りの温かい食事を提供している。 事業所内や地域の行事等に積極的に参加し交流を深めている。 ドライブ(花見、紅葉見学、案山子見学・ホタルの鑑賞)に出かけたり近隣の散歩をすることで、季節や自然を楽しんでいる。 利用者の身体状況に応じたケアを行い、利用者・家族の意向に沿った支援を行なっている。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ユニット1と同様</p>
-----------------

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	荘内の見やすい場所に掲示するとともに、毎朝の朝礼や職員会議時に確認し、支援に生かしている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や祭り等に参加して、地域との交流を図っている。食材などの買い物に利用者と一緒にやって、近隣の方との交流を図っている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方々に認知症の理解を深めてもらえるように取り組んでいる		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や運営に関する報告の他に意見交換の時間を設け要望やご意見を伺い話し合い、よりよいサービスの提供に努めている		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの情報交換や市の職員とも相談し、利用者が地域の中でさらに生活しやすいように連携を図っている		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護や身体拘束について研修を行い理解を深めるようにしている。又見守りに努め、施錠しないようにしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティング等で理解を深め虐待防止に対する認識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2ヶ月に一度の運営推進会議上でも、成年後見制度等について話し合いをして支援できるように取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項に理解納得していただけるように説明を心がけている。利用者の状態変化時には、家族と相談し方針を検討している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プラン見直し時や、面会時など機会あるごとに確認し、意向・要望等について話し合い、利用者主体の運営に努めている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務に対する改善点などを職員会議や朝礼時などで聞き運営に反映されるように努めている。事業計画作成時に職員の意見を聞き、計画に反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	慰労を兼ねた食事会や表彰制度を取り入れ、職員が向上心を持って働けるような職場環境づくりに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り必要な研修に参加し、職員の資質向上に努めている。又資格取得に向けて、個々人の取り組みもあり業務上の配慮を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中津市認知症高齢者グループホーム連絡会に所属し、年間を通じての交換実習をおこなっている。他事業所と交流を持ち、お互いの情報交換やサービスのあり方を検討しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた場合は、本人・家族の話を傾聴するように努めている。又担当ケアマネージャーより情報を得て、様々な問題に対応できるように努め、納得されたくうえで利用していただけるように取り組んでいる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談時に現状やサービス利用状況などをうかがい家族の意向を理解し、介護相談や助言など行うように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に状況を判断し、助言や他の機関等のサービスの紹介などを含めた対応をするように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が人生の先輩であるという認識を職員が共有し、利用者に教えていただくというストレングス視点の援助を行っている。季節の行事や習わし、特技や趣味を発揮できるように努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・電話連絡などで、利用者の様子を伝え状況を理解していただき、またご本人・ご家族の思いを受け止められるように、相談などにも気軽に応じるように心掛けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊、外出は自由にさせていただいている。面会時には、共に過ごせる場を提供し、大切な時間を有意義に過ごせるように努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞く機会を設けたり、皆でカラオケやCDを聴いたり、ソファでの談話など、それぞれの場で利用者同士の関係がうまくいくように心がけ、見守りなどの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移動された方にも、情報を提供したり、継続的な支援になるようにしている。又、面会の機会作りをしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情・行動・言葉等から、個々の思いを汲み取り、寄り添った支援に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人やご家族の意向や、担当ケアマネージャーより情報を得るようにしている。入居後も定期的に本人やご家族に聴き把握するように努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者個々人の生活リズムを理解すると共に、特技や趣味を發揮できる場面などを提供し、その状態に合わせた声かけ・見守り・支援を心がけ、個々人の状態を把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃からの関わりの中で、思いや意向を反映させるようにしている。職員全員で検討しケアプランを作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記載し、気づきや体調変化は申し送りを徹底し情報共有できるようにしている。又、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じた通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーに市の職員、地域包括支援センター職員、民生委員の参加があり情報交換を行っている。消防署とは、避難・消火・通報訓練の助言・指導を得ている。災害時には地域との協力を得ている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、又ご本人が希望する医療機関へ受診できるように支援している。受診時間や必要なときは、往診などで対応可能な協力医を確保している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的受診でご利用者の状況を把握している看護師や、同法人の看護師より助言を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の利用者の生活状況や希望を情報として提供し安定して治療を頂き、家族や医師と連絡を取り合いながら早期回復と退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される場合早い段階で医師と連携を図り、家族と話し合い、納得のいく終末期を過ごしていただけるように取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡網・マニュアルを把握しており救急法の勉強会を実施し、体得するようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時には、職員・地域の方にも緊急連絡網で協力を得られるようにしている。消防署の方の指導で総合訓練を行っている。同法人の協力体制もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の個々に合わせ、さりげない言葉かけや対応を心掛け、気づいた時は職員同士お互いに注意し合うようにしている。プライバシー保護についての勉強会を行い、理解が深められるように取り組んでいる。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活全般においてご利用者個々の方々の意思表示を大切にケアに心掛けている。意思表示が困難な場合は、顔きによる返答や表情を読み取るようにし、本人の意思が尊重できるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、体調やその日その時の本人の気持ちを尊重し、食事の時間・入浴の検討・変更、個別散歩など柔軟に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事(母の日・父に日・誕生日・敬老会)などには一緒に洋服を選んだり、お化粧品やおしゃれを楽しめるように支援している。地域の美容院でのカット・毛染め等の利用支援(談話をしながら)を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食とも調理するので利用者の好みや体調に合わせて調理方法を検討し、食材の買い物・もやしや根とり・シメジの小分け・ゴボウのささがきなど利用者の手伝いもある。職員も一緒に和やかに食事を楽しんでいる。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日チェックし摂取量が少ない場合は、申し送りや把握し必要な支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい・歯磨き・入れ歯の手入れを行い、口腔の清潔保持に努めている。又、毎夜入れ歯のポリドント清掃の支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、ご利用者の行動を察知しトイレ誘導を行い、出来るだけトイレにて排泄していただけるように支援している。又時間を見計らって誘導の声かけを行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動・水分摂取・飲食物などの工夫で便秘予防に努めている。排泄チェックで確認しながら排便支援を行っている。又医師より薬の処方されているご利用者もあり、様子観察をして内服支援を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週三回の入浴を基本とし、本人の体調や気分、希望、必要に応じて時間や入浴日を変更するなど柔軟な支援を行っている。入浴をゆったりと楽しんでいただけるように本人のペースに合わせた支援に取り組んでいる。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のご利用者の生活パターンを観察して、本人の意向を尊重した支援を行っている。例)昼食後のベッドでの休養・運動・レク・余暇活動など行うことにより安眠の支援に取り組んでいる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を変更した場合にその旨を記録し、職員間で情報を共有し本人に変化があった場合は医療機関と連絡を取り指示を得ている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴を把握して得意分野での一人ひとりの力を発揮してもらえるように配慮をする。グループホーム内でお手伝いできそうな仕事をお願いし、その後必ず感謝の気持ちをご本人に伝えるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により日常的に散歩・農協等への買い物・ドライブなどに出かけたり、また花見や紅葉見物など季節ごとの外出で外食等も楽しんでいただくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭感覚の能力に応じて、買い物外出時に職員が付き添いで支払いの見守り援助を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や用事があるとき、電話をしたり、絵手紙・年賀などで家族との交流を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内のホールにはソファを置き、テレビ鑑賞を出来るように、和室には、冬場はコタツを置いている。又ホールには、日当たりのいいところに畳を敷いて日向ぼっこを楽しめるように配慮している。CDをかけたり、利用者による貼り絵を飾ったりくつろげる雰囲気作りをしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の方々は、ソファでテレビ鑑賞をしたり、近くの利用者同士で談話をしたり、また日向ぼっこをされたりと、好みの場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	時計・カレンダー・テレビ・馴染みのある私物・家具・家族写真など居室に置き、やすらぎの場所作りに心掛けている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・エレベーター・浴室・脱衣所など手すりの設置や段差をなくし、安全や自立に配慮している。外出時、玄関に椅子を置き、腰掛けて靴などの交換をするようにしている。		